

農民は地主の権力から解放されつつある。
なぜなら、
土地に対する地主の所有権はなくなったからだ
——それは廃止されたのだ。
兵士と水兵は専制的な將軍の権力から解放されつつある。
なぜなら、
將軍は今は選挙制となり、
リコールに服すからだ。
労働者は資本家のきまぐれと専横から解放されつつある。
なぜなら、
今は工場労働者管理が確立されたからだ。
一切の生きているものならびに生きているものは、
憎むべき束縛から解放されつつある。
(ロシア人民の権利の宣言より)



「トランジスタ・商人」と日本の首相がやゆされたのは二昔前。自動車メーカーの社長を引きつれ、おもちゃ会社の出店式に顔を出す米大統領の姿に、おちふれた「大國」の末路を感じたのは私一人ではあるまい▼「世界新秩序」を掲げ、アジアの冷戦後を説くはずの東京宣言は、おかげで商売の語に終始。「経済」には強いが商売にはからきしダメな宮沢は、「イエス」の連発で得意の英語を披露。メシを食いながら倒れた大統領にむかって、この時とばかりに「オー・ノー」と叫んだとか▼大統領をして倒れるほどに走らしめざるを得ないほどアメリカの経済の落ち込みは厳しい。そして日本経済一人がこのまま突っ走れるほど甘くはない。事実、土木は枯らし、機械は受注見通しがたたず、コンピュータは落ち込む一方▼「サチ、ひと仕事」の一九九二年にしようじや、アリーマセンカ。(M)

いつもなら、日本の首相が代わればまず第一番にアメリカ参りをするのが、今回はブッシュが飛んできた▼昨年暮れは、選挙を前に不況の進行する内政の弱点を突かれ、中止。新年は、その不況に追い立てられ、ナリフリかまわぬセルスマンとして来日。サービス過剰で過労死寸前だ▼そこには、湾岸戦争やソ連崩壊時のあの満面の得意顔はもうない。ブッシュのあがきは、勝ち誇る資本主義のよろさを世界に露呈した。パプルののはじけた我が日本資本主義とて、繁栄のかけりは大きい。我々だけが歴史



的変動の枠外におれるわけではない▼我々もまた、崩れ行くものを直視してどう対応するのか、鋭く問われている。繁栄ボケをふっしょくし、時来たれりと振るい立てる基盤を、着実に作り上げたい。(H)

新年の各商業紙の社説、居丈高に改憲を唱える「読売」「産経」、国民一人一人の在りようまで含めて日本の今後を考えたいとする内面的な「朝日」「毎日」、両極端に分かれた▼読んで思わず苦笑い。どこか「社会主義」崩壊に直面した左翼の対応と似てないか。「社会主義の正しさ」をひたすら叫ぶ人々と、ただただ困惑する人々と▼ドグマの押しつけは虚しい、心情だけを吐露されても白々しい、危機はこの垂離の中にこそ。繁栄だ豊かさだと浮かっているうちに、我々はいつしか自ら自身を、抛るべき現実を見失ってしまったのではないか。「泰平の眠りを覚ます蒸気船」だった二はいで夜も眠れず」かな?▼海図なきうねりの中で、今年も世界は揺れる、日本はきしむ。小手先の泥縄や突っ張りは無意味だ。したたかな、しなやかな思想と生き方を打ち鍛えよう。そしてしたたかに、しなやかに前進を!(T)

〈主張〉

アメリカの世界
戦略に縛られた日
本。第二幕はPKO
法となし崩し改憲だ。

ブッシュ訪日にヨレヨレ宮沢
米の世界覇権に追従

一昔前の押し売り劇
演じたブッシュ

八日の首相官邸でのブッシュの卒倒をはじめ、彼の訪日の模様を写したテレビを見ていて、私は幼い時に何度か出会った光景を思い出していた。



軍産複合体に縛られ
軍事費削減できず

細々と政治テクニクはいろいろあるが、それぞれ妥協を許さない基本的なところで対立するようになっていく。その結果、基本となるべきもの、その解決を

軍産複合体に縛られ
軍事費削減できず

避けては通れない。戦後、日本は平和憲法を掲げ、軍産複合体の形成を抑制してきた。しかし、冷戦終結後、国際情勢の激変により、日本は再び軍産複合体に縛られることになった。

軍産複合体に縛られ
軍事費削減できず

今の押し売りなら、当然、時よりはずっと洗練されていく。ブッシュ政権は、自らの支持基盤である軍産複合体の利益を守ることを、核戦略兵器システムによる世界的な覇権を維持するために、軍事費の削減ができない。それで、国内経済の立て直し、という課題に取り組むことができない。

軍産複合体に縛られ
軍事費削減できず

本来的な問題とその対処のやり方について、次のように言えるだろう。米国の経済を建て直すという課題に直面しているブッシュにとって、自動車産業の雇用拡大は枝葉末節の話で、エイズの蔓延、公的教育の崩壊、失業率の急増、ホームレスという路上生活者の急増、上下水道・高速道路・港湾施設・鉄道など産業基盤の荒廃など、社会全体の荒廃・分裂状況と闘わなければならない。これに対する唯一の現実的な政策は、いまだにGNPの4%を占める軍事費の大幅削減による「平和の配当」だ。しかし、

独自の対アジア政策
出せぬ宮沢政権

このアジア地域における政治と経済が乖離する理由は、アジア地域の経済発展が、超国家的な資本活動の展開を原動力にしているためで、それだけの国の社会に内在している経済成長の論理を、

独自の対アジア政策
出せぬ宮沢政権

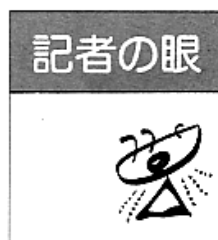
超国家的な資本活動が圧倒しており、国家が経済成長をコントロールしていかないからだ。そのため、戦後日本の高度成長期とまったく逆に、経済成長が早ければ早いほど、その国の政治がますます不安定化する、との皮肉な結果になっている。

独自の対アジア政策
出せぬ宮沢政権

それに加えて、カンボジアとフィリピンで、マオイズムの政治組織と軍隊が、農民の間で着実に信頼をえており、フィリピンではこの勢力を後ろ楯にして民族主義運動が

独自の対アジア政策
出せぬ宮沢政権

高橋のキャベツ畑に行った。昨年十一月の日曜日、朝から曇りかけて四人で約百回収穫した。四日、「こんな正月から畑に出る百姓なんかおらん」という冷やかしを通り、人の集まりはさっぱり。畑といっても近くの農家の農地。話を付けて、地域の無農業者で有機栽培の野菜などをつくる場を提供しているという



都市近郊農家の悩みは「コメ自由化より駐車場づくり」

もの。背景には、農地がたコメ自由化反対集会であつてもそれを耕す人手が農家にはない後継者不在という事情がある。昨年の十一月の畑仕事の時、クワを借りに行ったら先の農家のおばあさんが九十歳。コメづくりでは生活できない。自分

リーマン、畑仕事は全然手伝わってられない」と諦めた感じだった。豊中市に比べれば畑は広々として見えるがここも近郊農業。農地の宅地化、地域の都市化が進む。昨年二月に開かれ

高まり、三年後に米兵は一兵たりともこの国からいなくなる。しかし、日本には、このような近隣諸国の不安定化する支配体制と民族主義の高揚という、困難な問題を抱えている。困窮した農家は、この地域(東アジア)で適切な水準を維持することが重要だ」と書きこまれた。これは、宮沢がブッシュに軍事費の大幅削減を言い出せるわけがなく、日本政府の選択の余地はほとんどなかった。



か」。この話を畑に来てくれた学生にしたら、「そんなの当たり前」という感じで受け取った。実家が兼業農家。となりの灰木市だったのだ。後継者不足で遅かれ早かれ日本の農業は崩壊すると言われるが、近郊農業の場合、崩壊の味は更に一歩踏み込んだものになっているようだ。

再び浮上する
PKO法案

東アジアの情勢をこのように分析すれば、昨年の臨時国会で継続審議となったPKO法案が、今国会で蒸し返されるのは確実だ。この法案の目的は、国連軍への自衛隊の派兵にあるだけでなく、イラクに侵食した多国軍型の軍隊への派兵に道

再び浮上する
PKO法案

し、PKO法案が成立すれば、カンボジアに自衛隊が派兵されると、クメール・ルージュ(ポル・ポト派)の軍隊と戦争になるのは、目に見えており、フィリピンで親米政権が崩壊の危機になれば、自衛隊の派兵は確実だ。

再び浮上する
PKO法案

そのために、日本の支

再び浮上する
PKO法案

配階級は、「社会主義」が崩壊し或いは対立的でなくなったにもかかわらず、安保体制の維持を望んでいるのであり、いわゆる小沢調査会の答申も、この情勢をにらんでのことである。小沢は、PKO法案で宮沢のやり方は姑息だと非難するが、小沢も彼と五〇歩歩ではないか。小沢は、憲法九条について国民の世論を聞いて、その結果に誠実にしたがう、との政治家・国家公務員としての任務を放棄し、最初から国民の意志を無視して、解釈改憲でいこうというのだから。

再び浮上する
PKO法案

ブッシュ・宮沢の押し売り劇の第一幕は、ブッシュが卒倒を演じてお開きとなったが、これではおわらない。第二幕は、PKO法案、落し崩しの解釈改憲との闘いとなつて、本番を迎えるだろう。

思想の科学社

マルクス主義の
バランスシート I・II

1991年7月号
マルクス主義のバランス
シート・増刊号 藤田省三
見田宗介 森毅 柳川哲夫
上野千鶴子 いいだもも他

1991年9月号
状況からの再出発 久野 収
五十年の闘いで 梅澤忠夫
未来に向けて 中岡哲郎
武谷三男 乾孝 和田洋一
南博 鶴見和子 鈴木均他

定価各802円(本体740円)

吉川勇一

市民運動
の宿題

ベトナム
から
反戦
未来へ

ふつうの市民によるベトナム反戦運動「ベトナム(ベトナムに平和を) 市民連合」。「事務局長」として運動を支え、市民運動における実務と組織のあり方を一貫して追求してきた著者が、いま「ベトナム」を問い直す。

中山千夏氏推薦ノ 定価2266円(税込)

マクドナルドの勝手裏

青木卓著

世界最大の外食企業マクドナルドに気鋭のルポライターが潜入した。そこで働く若者たちの通し巨大企業の姿を浮彫りに。定価1648円

放射線被曝の歴史

中川保雄著

放射線許容量とはいったい何か? 国際的な基準の問題点をあばきつつ、市民の側から被曝問題を歴史的に解いていく。 定価2060円

コンピュータ資本主義

コンピュータ労働研究会編

コンピュータ化をいっきに加速させた80年代の総括を通して、90年代世紀末社会のあり方、問題点を展望。 定価1648円

脳死・臓器移植を問う

脳死・臓器移植に反対する市民会議編

脳死論議が高まる中で、医療の現場では移植医療が進められている。その過程で置き忘れられている問題をチェックする。 定価1854円

技術人間

〒162 新宿区神楽坂3-6-12
☎03-3260-9321

砂漠の死闘 17年 —ポリサリオ戦線—

レポート・平田伊都子
撮影・川名生十

終

RASDはOAU(アフリカ連合機構)で独立国家として認められている。既に七カ国とは大使を交換している。正式国交のないフランスやスペイン、英国、それからアメリカからも今回の人民投票には監視団として

モロッコ以外のマグレブ(北アフリカ諸国)との関係はどうですか? 【A】アルジェリアは一番協力的だ。我々西サハラ住民に難民キャンプ地を提供してくれるし物資援助もしている。リビアもチュニジアも我々ポリサリオ戦線を支援してくれている。

モロココ以外のマグレブ(北アフリカ諸国)との関係はどうですか? 【A】アルジェリアは一番協力的だ。我々西サハラ住民に難民キャンプ地を提供してくれるし物資援助もしている。リビアもチュニジアも我々ポリサリオ戦線を支援してくれている。

74ヶ国が承認した RASD(サハラ・アラブ民主共和国)

日本との接点

日本は住民投票監視団を派遣するのでしょうか?

【A】いや、今のところ政府としては派遣するつもりはないようだ。しか



▲ポリサリオ戦士ハビブさん(右)と平田伊都子さん(左)

頼むぜ、国連!! 一日も早く住民投票を

——一九九二年の国連の課題はパレスチナ問題と

西サハラ問題と云われています。が、西サハラの方は、まがりなりにも当事国が住民投票という解決案に同意しているのだから、国連は強力、かつすみやかに施行して欲しいですね。

【A】結局、モロッコは住民投票に参加することになる。フランスとアルジェリ

二月現在もMINURSO(西サハラ住民投

が……しかし……

西サハラをめぐる主な動き

- 1884年 スペイン、西サハラ地方の「橋頭堡」化を宣言。
- 1912年 スペイン・フランス間で、西アフリカにおける勢力範囲確定。
- 1934年 スペイン政府、西サハラに総督任命。
- 1943年 スペイン、西サハラでリン鉱床発見。
- 1946年 モロッコに総督をおくスペイン領西サハラ誕生。
- 1957年 現地住民の大規模な反スペイン・ゲリラ闘争。
- 1958年 西サハラ、スペインの第51州に。
- 1966年 モロッコ領内でサハラ解放戦線設立。国連総会、住民投票によるサハラの自決を呼びかける決議採択。
- 1970年 西サハラで初の政治デモ。
- 1973年 ポリサリオ戦線創立、スペインとの戦闘に入る。
- 1975年 国際司法裁判所、西サハラの自決を勧告。スペインのフランコ総督、危篤。皇太子即位。モロッコのハッサン二世、モロッコ人35万人以上を動員し、サハラ大行進強行。スペイン、モロッコ、モーリタニア3

国間で秘密協定成立(西サハラをモロッコ、モーリタニアに分割)。両軍の侵攻開始。

- 1976年 スペイン軍、西サハラから撤退。ポリサリオ戦線、サハラ・アラブ民主共和国(RASD)樹立宣言。
- 1978年 モーリタニアでクーデター発生。新政権、ポリサリオに対し一方的停戦。
- 1979年 モーリタニアとポリサリオ間で和平協定成立。
- 国連総会、モロッコに対しポリサリオとの直接交渉を勧告。
- 1981年 ハッサン二世、OAU会議で国際機構監視下の住民投票を受け入れ(しかし実施されず)。
- 1982年 OAU、RASDの正式加盟承認。モロッコ、これに抗議し脱退。
- 1988年 国連デクエアル事務総長の和平仲介開始。8月、ポリサリオ戦線・モロッコ国王の両者がデクエアル提案を原則的に受け入れ。
- 1991年 国連安保理、西サハラ住民投票使節団(MINURSO)発足を承認。国連計画に則る停戦成立。



票実施団連派連団)の西サハラ入を拒絶するモロッコの態度を危惧して、フランスではミッテラン大統領夫人が議長となった「フランス・リベ

ルテ」が立ち上がった。大規模な民間投票監視団を組織しつつある。しかし、モロッコはこの団体の西サハラ入国を拒否している。「フランス・リベ



殆ど毎日のようにジャーナリストが難民キャンプにやってくる。我々はモロッコのように報道陣をシャットアウトしないよ。我々の立場と状況をできるだけ多くの人に知って欲しいからね。どうして日本の報道陣は関心が薄いのかね?」

最後に、一九九一年六月、難民キャンプに逃げ込んだ二人の西サハラ青年がスペイン日刊紙「エル・パイス」に応えたインタビュー記事を用いたと思う。西サハラ住民たちが近づきつつある住民投票に恐怖を抱き、棄権の恐れさえあるからだ。

国王の策略であったことは明らかです。しかし、国連が何らかの行動をとってくれていたら、逮捕者は即、釈放されていたかもしれない。西サハラ住民はこの時、国連に対し落胆してしましました」



たのだ。この変更を知らされなかった西サハラ占領地の住民は、予定通りのデモを開始した。多数のデモ参加者が逮捕され、拷問によって二名が殺された。

まんまと、モロッコ当局が仕掛けた罠にはまってしまったのだ。これが西サハラ住民に残っている国連不信事件のあらましである。

国連はこの事件の償いのためにも、あらゆるネットワークを使って一日も早く西サハラ住民投票を施行すべきだ。

そして、「国連中心の外交政策」を公言した宮沢内閣は、今度こそ、その言葉を訴えようとした。しかし、急遽、日程が変更され、国連技術派遣団は国王の招待でモロッコのスエズに行ってしまう(おわり)

PLO駐日代表が語る受難の歴史

- 内容紹介
- プロローグ わが故郷
- 第1章 ラムラの時代
- 第2章 パレスチナからの移住
- 第3章 シオニストのテロ
- 第4章 ラムラ住民の追放
- 第5章 アンマンの難民生活
- 第6章 パレスチナ学生闘争
- 第7章 ヨルダンでの労働組合運動
- 第8章 パレスチナ解放戦争の発展
- 第9章 戒厳令下のアンマン
- 第10章 1970年代のカイロ
- 第11章 プラハでの国際活動
- 第12章 パレスチナと日本
- 補 篇 パレスチナの現状と展望

四六版 上製
272頁
定価 1800円
+税 54円
税込 1854円

発行 社会批評社 東京都中野区大塚1-12-10 TEL.03-3410-0981 代印 東京 6-161272
発売 新泉社 東京都文京区本郷2-15-20 TEL.03-3815-1662 代印 東京 7-160996



千名の仲間つくり、それ行け

東京ユニオン

最近仲間になったあなた、随分昔から頑張っているあなた、御無沙汰のあなた、今年もよろしく。

風通しのよいユニオンと一〇〇〇名の仲間づくりへ今年もそれ行け！

控訴審は予断を許しません

柳本会労働組合

昨年は控訴審闘争を闘いつつも、現場の争議こそがと頭張ってまいりました。今年は控訴審も結審しますが、現在の司法の反動化状況もあり、予断は許しません。しかし解雇撤回闘争は、当事者の話し合いでしか解決しないものです。今年はこの事を柳本会温に知らしめる年にしようと思っております。今後とも御支援をよろしくお願い致します。

外国人労働者は増えています

全道パート連絡会

二月五日、全道パートユニオン連絡会が市民団体と共催で「外国人労働者の人権を考える集い」を行い、市民ら七〇

宮沢政府打倒を掲げ闘おう

電気通信産業労働組合

全世界の労働者と連帯し、宮沢自民政府打倒をかかげ、全労働に結集して共に闘いぬこう。

七度目のわびしき雑煮……

飯田篤郎

七度目の わびしき雑煮 祝いおり 公平に 初日さしたり 独居房

PKO法案に反対します

宮森幹男

私達は平和を願うからこそ、戦争への道を切り開くPKO法案に反対します。 *



者の年賀状から

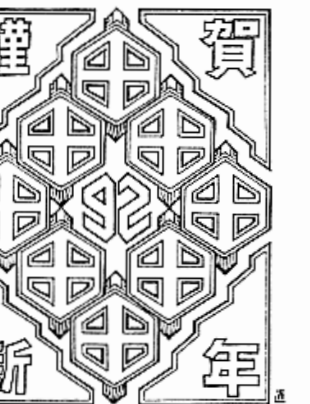
体へと、一九九一年も何かと内外激動の年でした。揺るぎなき祖国よ……と歌われたソ連も、あつた。この間「解体」でした。これから世界で、日本で、どんな予想もつかぬことが起きるかわかりません。そんな中でどのようなことが起きようとも、たとえ力なくとも不当・不正なことに對しては、NOを言い続け、改革への努力を続けていきたいと思っています。

さて、湾岸戦争・九〇億ドル支援、自衛隊・掃海艇派遣などの差止(その後進憲確認)を求め、政府を相手に昨春、訴訟を起こしました。明らかに憲法違反であつても、いざ裁判となると難しいとされる訴訟です。でも理解ある弁護士さん、そして多くの原告参加の方

戦争に税金を払わないぞ！

和田喜太郎

湾岸戦争からソ連邦解



どうすんですか

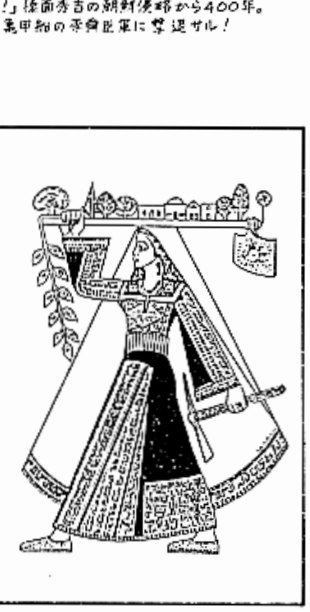
丸岡修

「人民新聞」は、最近、元気がないように見受けられます。「人民新聞」が元気をなくしてどうすんですか！ 支配者階級を喜ばせないように。がんばって下さい。

私たちの昭和史概観……

柳下村塾

明治までおめでとございます。 私たちの昭和史概観 一九四五年……一五年戦争終る 一九五〇年……冷戦、朝鮮戦争勃発 一九六〇年……三池争議、エネルギー革命、安保、高度成長、繁栄と公害と人間力の低下始まる 一九七〇年……伝習館闘争起こる 一九七二年……柳下村塾設立 一九七七年……たべもの共



融和主義と闘つていく決意

千葉・S

「人民新聞」は、最近、元気がないように見受けられます。「人民新聞」が元気をなくしてどうすんですか！ 支配者階級を喜ばせないように。がんばって下さい。

融和主義と闘つていく決意

千葉・S

「人民新聞」は、最近、元気がないように見受けられます。「人民新聞」が元気をなくしてどうすんですか！ 支配者階級を喜ばせないように。がんばって下さい。

陰の内閣で頑張っています

堀利和

「国会報告」 *運輸委員会では、障害者、高齢者が自由に外出できるように、交通機関の改善に取り組んでいます。

社会主義の再生を信じる

清原武司

ソ連は昨年、共産党が解散され、赤旗が消え、国が消滅した。東欧諸国なども同じような激動の中にあります。 私は先年、ソ連の民衆の生活を見聞しているの

情報ひろば

●関東

あるべきか？ 福田雅章 (刑事立法研究会、一橋大教授) / 中野区立南都公会堂(丸の内線富士見町) / 主催：同実行委

▼あなたのグループが講師をよぶとき / 今の講師派遣制度のあり方と問題点を考える / 第34回市民活動交流集会 2月1日(土) 午後1時半~4時半 / 多摩社会教育会館長を囲んで、「保谷市からの報告」奥津としこ、「稲城市からの報告」荒井理子、「三多摩の講師派遣制度の状況」 / 多摩社会教育会館市民活動サービスクーナ1集会室 / 問合せ：同クーナ 0425-2519165

▼「経済制裁下のイラクを歩く」講演会 2月12日(水) 午後7時 / 飯正敏(いとう・まさとし、衆議院議員) / 神楽坂エミール(富田地下鉄神楽坂) 03-3326013251 / 千円 / 護士)、再現劇「塙の中



社会党の政界再編は夢物語

宮崎・S

九二年は参院選挙がある。反自民の立場で投票したい。まず社会党を支持し、次に日共と

昨年支援で多大な成果

在日韓国人政治犯を救済する家族・同胞の会 関西事務所

昨年は皆様の支援をもちまして、国連人権小委員会代表派遣、大衆署名活動、全国キャラバン活動など、多大な成果を

おさめることができた。一九九二年という激動の年を韓国全政治犯解放への大きな転機に迎えて参る所存です。

末のなかで、私たちはどのように闘い、生きるべきか……本誌にとっても厳しい問いを投げかけねばならない九二年が始まります。新しい状況に立ち向かう新たな運動の形成へ。

東京・K

若き闘士の話 原点を感じる

遠藤忠夫

既成党の新聞では理解できない、納得できない……ソ連、パレスチナ、イラク他、わからない事が

昨年(一九九〇年)二月、栃木県足利市の廃品回収場で、イラン人労働者がベルトコンベヤーにはさまれて死亡するとい

今年新たな運動の形成へ

労働情報編集委員会

ソ連邦の解体と西側世界への一極集中、そしてアジア・第三世界問題の彼岸化、混沌とした世紀



「日本の自主と団結」のために

- 協力ごとうし
カンパがいが
あご
- *三重A二万円*神奈川一八千円*大阪W三万円
 - *大阪N一万七千円*大阪O五万円*愛知S二
 - *五百円*高知T四千円*兵庫H五千円*京都T二
 - *万円*大阪K二万円*埼玉N三万円*京都O三
 - *円*東京J三万円*東京T七千円*大阪I五千円
 - *大阪U一万円*千葉O五千円*滋賀S一千円
 - *東京K五千円*石川H一千円*大阪H二千円*大
 - *阪K一万四千円*大阪M四千円*大阪I二千円
 - *兵庫K五千円*岐阜K六千五百円*兵庫F一万七
 - *千円*大阪M四千円*兵庫N二千円*京都S四万
 - 円*大阪Y四万円*大阪T二万円*大阪U二万円
 - *兵庫M二万七千円*兵庫T二万円*奈良N二
 - *万円*大阪Y一万円*大阪Y二万円*大阪A四
 - *大阪S五万円*大阪M一万円*兵庫M二万円
 - *大阪O一万円*大阪I五万円*奈良N五万円*大
 - *阪M一万四千円*大阪T二万円*大阪Y五万円
 - *大阪E二万円*大阪O七千円*大阪S一万円*大
 - *阪K一万円*大阪K四千円*大阪S一万円*大阪
 - *S六千円*大阪K一万円*大阪O一万三千円*神
 - *奈川K三万円*富山T二万円*大阪N一万円*大
 - *阪H一万一千円*大阪T一万円*兵庫M五千円
 - *大阪O三万円 小計七十九万五千円・合計一
 - 四一萬三千円

第三世界人民の闘いを 私達共通の課題として

年頭のブッシュ訪日 が意味するもの

一九九二年はブッシュの来日で明けた。経済関係と三大自動車メーカーの社長を引き連れたブッシュの来日と、彼が演じて見せたパフォーマンスは、正に今年を象徴するものであったと言える。湾岸戦争とソ連の崩壊を経て、資本主義の勝利を謳い上げ、世界の盟主として君臨したはずのアメリカの大統領が、恥も外聞もなく自らの再選のために押し売りに回らざるを得ず、おまけに訪問先で過労のため

に失神してしまったのだ。まずそれは、アメリカ自体が経済的にも政治的にも疲弊し没落期にあるという事実が隠しようもなく明らかになりつつあるにもかかわらず、強大な軍事力を背景にしたそのアメリカの「一元支配」の枠組みの中で再編が進む、という世界の混沌とした現状を改めて我々に認識させた。そして更に、日本にとっては、この間の世界的激動の意味がより一層具体的に日本の進路・対応を問うものとして迫られる中で、日本の支配層は全体として明確な理念も展望も示し得ず、アメリカ主導の

「新世界秩序」を、財政的・政治的に支える役割へと、場当たり的にズルズルと引き込まれていくであろうことをも予感させた。

大雑把に図式化すれば、来年のEC統合をにらみつつ経済のブロック化が進み、帝国主義間の矛盾は激化するが、大枠としてはアメリカ主導の帝国主義による世界支配が続く。しかしそれは、資本主義システムの必然として、中心部、周縁部の分極化、格差を拡大させ、それに伴い、世界的にも、それぞれのブロック内においても「南北対立」が主要な矛盾として浮上してくる。そして日本の政府・自民党は、その基盤の脆弱さを政界再編によって補完しつつ、軍事力による世界制覇というアメリカの幻想に追随し、自

自主・自立と 国際連帯を目ざして

衛隊の海外派兵、とりわけアジアへの派兵を急ぐ――。

私たちは今年一年、第三世界、「南」側の人民・諸勢力の闘いに注目していきたいと考えている。一つは、今や帝国主義の一方の極として強大化した日本の、私たちの在りようを考えると、その視点が不可欠だからであり、そしてもう一つは、昨年来追求してきた「社会主義の再生を目標とする」視点からである。

現在、第三世界における解放主体は、「社会主義」の崩壊により物質的・政治的支援を失い、生存・存続すら脅かされるという困難な状況下におかれている。しかし「我々

第三世界人民は、資本主義を万端として見なすことも、理解することもできない。我々はそれを拒否する。我々はまさしく資本主義の犠牲者であり、これに反対して闘う」(サンディニスタ民族解放戦線)という共通の状況下で、資本主義への根底的批判を内在させて、自主・自立の闘いの方向を模索しつつある。

私たちは、こうした闘いに学びつつ、その交流を通して私たちが自身もそれを共通の課題として担うことが是非必要だと思ふのだ。

問われる私達の主体の確立・力量
言うまでもなく、そこで前提とされ問われるのは、日本

関西

の悲しい看守たち、被拘禁者の処遇はどう

連絡：軍事問題研究会 03-3591-13210

政会館(JR大阪)／講演棟居快行(むねやす)としゆき、神大教員／主催「即・大」いけん訴訟団

1月25日午後1時半／郵政会館3階／主催：「外登証を国会議員に預けよう行動」を支える会

1月25日午後1時半／青山正さんを救済する兵庫実行委員会結成・学習集会

1月25日(土)午後1時／神戸市心身障害者福祉センター(阪急新開地)／同援する関西市民の会 06-1323-5523本原

1月25日(土)午後2時／お話 藤田進(東京外大アラビア語科)、田中好子(パレスチナの子供キャンペーン)／姫路市民会館第6会議室(JR姫路)／五百円／主催：パレスチナを考える姫路の会／連絡 079-4132-0539 神吉(夜8時)11時

1月25日午後2時／郵政会館3階／主催：「外登証を国会議員に預けよう行動」を支える会

1月25日(土)午後2時／お話 藤田進(東京外大アラビア語科)、田中好子(パレスチナの子供キャンペーン)／姫路市民会館第6会議室(JR姫路)／五百円／主催：パレスチナを考える姫路の会／連絡 079-4132-0539 神吉(夜8時)11時

1月25日(土)午後3時／講師：鈴木威雄(富士ロテックス)／ニューキラクホール／主催：市民政経フォーラム／問合せ 054-1251-502884

各地

1月25日(土)午後3時／講師：鈴木威雄(富士ロテックス)／ニューキラクホール／主催：市民政経フォーラム／問合せ 054-1251-502884

1月25日(土)午後3時／講師：鈴木威雄(富士ロテックス)／ニューキラクホール／主催：市民政経フォーラム／問合せ 054-1251-502884

マルクス主義・社会主義を信じ 目指した者の課題として

Aさんへの手紙

大阪・K

冷戦に見る

世界勢力地図

ここでなぜ冷戦の構造を取り上げるのか？と言えば、「すべては社会主義が間違っていて、資本主義が常に正しかったのだ」という、巷に流布されているブルジョア的イデオロギーに、再び反論したい意図があつたのとです。

冷戦については、大まかに三つの見方が存在するようです。一つは、世界平和のチャンスがあつたのに、スターリンらの自己本位な野心（膨張政策）が、チャン

欧州・ファシズムからの解放

アメリカが冷戦を直接の具体的政策として打ち出してきたのは、一九四七年三月のトルーマン・ドクトリンの「宣言」からではないか、と私は理解しています。当時の国際情勢を思い起こしてみ

〈特集〉 ソ連の崩壊を、 どう考えるのか

他方、社会主義勢力と帝国主義からの解放をもとめる民主主義・民族独立勢力の力量は飛躍的に

強まりました。

世界の平和機構として一九四五年半ばに新しく国連が誕生しましたが、その国連で社会主義ソ連は、常任理事国として発言力と役割が高まり、重みが増してきました。資本主義先進国でも変化がありました。反ファシズム勢力による抵抗闘争の強かった仏・伊では、抵抗の主力であった労働階級と共産党の信望が高まり、共産党が議会の第一党、或いは第二党の地位を占めるに至りました。英国でも労働運動の高まりをみせ、一九四五年、世界労働（世界労働組合会議）の結成大会がロンドンで開かれたり、保守党が選挙に破れ、労働党のアトリー政権が誕生するといった事態が生まれました。

仏・米の支配

ベトナム戦争

ベトナムでは、日帝支配に対する抵抗組織、ベトナム民族民主戦線（ベトナム）が活動中でした。一九四五年九月三日ベトナム民主共和国が樹立され、ホーチミンが首

アメリカの 肝入りで「独立」

東欧諸国のファシズムからの解放については先に述べましたが、第二次大戦後の解放運動の先頭を切ったのは、アジア諸国の民族解放独立の運動でした。



▲1943年、大東亜会議のために東京を訪れたビルマのバモーと東条首相。

本軍の降伏以後、アメリカはフィリピンの独立を認めなければならなくなりましたが、「フク団」をよしとせず、自らの支配権をうち立てるために親米に衣替えした反動派ラウレルを支持し、彼の政府を傀儡にすることでフィリピン共和国が誕生しました。

第二次大戦の頃、ベトナム・ラオス・カンボジアの占領地各国に傀儡

席に選ばれ、バオダイ帝は追放されました。その後、旧宗主国フランスはベトナムを支配し、人民の抑圧を続けて利権を確保するために、北緯一八度線以南に、バオダイを擁するベトナム共和国を作り、ベトナム民主共和国に侵攻しました。フランスは、解放勢力・ベトナム（ベトナム共産党）との戦いで敗退し、ビエンベンで降伏した結果、フランスによるベトナム支配に終止符が打たれることになりました。ところが、冷戦を目すアメリカがフランスに代わり、ふたたび侵略者としてベトナム人民の前に立ちのぼりました。アメリカはベトナム民主共和国の存在にあらさるまな不快感を示し、南ベトナムにバオダイを擁し、その将軍、ゴ・ティン・

独立による植民地支配を強めました。インドではチャンドラボースの政府、タイではピブンの政府、中国では国民党右派の王精衛、その他インドネシアやビルマでもそうでした。

それは、解放と民族独立を望む人民の抵抗運動の高まりを抑え込む必要に迫られた、日本帝国主義の支配の仕方でした。

その民族独立・解放の闘いを抑える必要上、今度は戦勝国アメリカや英・仏が、日帝の植民地支配の仕方を真似て、フィリピンのような反共の傀儡国家を樹立しました。同じ頃、同様にカンボジアにも王國の誕生をみています。日本軍は東南アジアの占領地各国に傀儡

地支配の当時から、解放・独立を指向する抵抗組織の戦いがあつたことに拠っています。独立闘争は、朝鮮人民委員会全国代表大会が決議して、人民共和国の樹立を宣言するまでに至り、発展をみたのでした。

しかし、アメリカ軍が仁川に上陸し（一九四五年九月四日）、北緯三八度線南に軍政を敷いたのです。その結果、一度は撤退したソ連軍も舞い戻り、民族が分断され、南北の人々が双方に別れて戦うという、悲劇的な朝鮮戦争勃発の大地がつくられたのでした。

このようななかで一九五〇年六月、朝鮮戦争がおこったのですが、ここでもアメリカは、原爆を落とす脅迫し、日本を基地にしたB52戦略・戦術爆撃機を戦場に投入しました。ナバーム爆弾による絨毯爆撃は、国土を焼きつくし人民を殺し尽くすという戦術であり、その比類をみない残酷な戦争行為は、人類の破壊行為として世界人民の非難するところになりました。

これが冷戦構造としてわたしが伺い知るところの、歴史的事実です。（つづく）

列強支配の 影をひく38度線

中国では、日帝降伏後毛沢東と周恩来が重慶に赴き、蒋介石と国・共合作を合意し、国作りに係ろうとした。が、程無く蒋介石は、アメリカ

1950年、朝鮮動乱で軍の出動命令を出したトルーマン大統領



闘いの息吹きを伝えるグラフ誌
Photo & News

ひろば

発行人 前田俊彦
顧問 伊藤成彦 庄幸司郎 樋口篤三
編集長 原 一美

今号の主な記事は

- アイヌ民族のふるさとが水底に
- 朝鮮人従軍慰安婦問題を考える
- 新工場移転を前にしたトアムコ労組
- ウーフ文庫から見た現代子供事情
- 自然葬は地球へ還る旅
- 世界の動き 始まった中東和平会議
- その他

1月15日発売 No51 1部450円

お近くの書店でご注文下さい

注文先 ツニタ書房 東京都千代田区神田山手町1-52
03(291)5533

定期購読の申し込みを

年間3,600円(千円)

申込先 ひろば編集委員会 東京都神田区東山手町4-45 4 福川住民ひろば 03(306)4370
印刷所 東京印刷 東京都墨田区 5-8-12 202 印刷住民ひろば 03(422)8237
発行所 東京 5-4537

小集会/会議に最適 (20名まで)

時間制限なし(宿泊はできません)

1人1時間100円の低料金

(ただし7人以下の場合は7人分、3時間以下の場合は3時間分の料金とします)

天満橋会館 会議室

▶お申し込み/お問い合わせは▶

06-358-4376 人民新聞社まで

(国鉄大阪環状線天満橋より徒歩3分)